

平成 2 6 年度

運営に関する計画

自己評価

(最終評価)

大阪市立横堤中学校

平成 2 7 年 2 月 1 3 日

## 目 次

|   |                 |       |
|---|-----------------|-------|
| 1 | 学校教育目標          | P. 1  |
| 2 | 総括シート           |       |
|   | 学校運営の中期目標       | P. 2  |
|   | 中期目標の達成に向けた年度目標 | P. 3  |
|   | 本年度の自己評価結果の総括   | P. 3  |
| 3 | 目標別シート          |       |
|   | 視点・学力の向上        |       |
|   | 教務部             | P. 5  |
|   | 国語科             | P. 6  |
|   | 社会科             | P. 6  |
|   | 数学科             | P. 8  |
|   | 理科              | P. 9  |
|   | 英語科             | P. 9  |
|   | 音楽科             | P. 11 |
|   | 美術科             | P. 12 |
|   | 保健体育科           | P. 13 |
|   | 技術家庭科           | P. 14 |
|   | 道徳心・社会性の向上      |       |
|   | 人権・特別支援教育委員会    | P. 15 |
|   | 生活指導部           | P. 16 |
|   | 進路指導委員会         | P. 18 |
|   | 健康・体力の保持増進      |       |
|   | 保健体育科           | P. 19 |
|   | 体育行事委員会         | P. 20 |
|   | 健康教育部           | P. 21 |
|   | 1年              | P. 22 |
|   | 2年              | P. 23 |
|   | 3年              | P. 24 |

### 評価基準

- A：目標を上回って達成した
- B：目標どおりに達成した
- C：取り組んだが目標を達成できなかった
- D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

## 平成26年度 大阪市立横堤中学校 学校教育目標



### <学校教育目標>

- I 自ら考え、自ら学ぶ、知性豊かな生徒を育成する。
- II 自然や人間を愛する、情操豊かな生徒を育成する。
- III たくましい体力と充実した気力ある生徒を育成する。
- IV 基本的生活習慣を実践する生徒を育成する。

### <総合目標>

人間尊重の教育を基盤に、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るとともに、生徒一人ひとりのよさや可能性を伸ばすことにより、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」をはぐくむ。

### <具体的目標>

- 1 互いに違いを認め合い、思いやりを持って協力し合う、いじめを許さない集団づくりを行う。
- 2 確かな学力の定着を図るとともに、一人ひとりの個性や創造性を伸ばし、自ら学び、自ら考え、問題解決できる力を育てる。
- 3 生涯にわたり運動やスポーツに親しみ、心身ともに健康で活力のある生活が送られるよう、自ら運動に取り組む習慣や能力を育てる。
- 4 教育相談活動を充実させるとともに、家庭との連携をより密にして、自ら規律ある生活習慣が実践できる力を育てる。
- 5 小学校との連携を密にして、一貫性のある効果的な指導に努める。

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 定期テスト、実力テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒は、3 年生において減少傾向にあるものの、1・2 年生では十分に成果をあげることはできなかった。個々の生徒の課題やつまずきを把握し、学習内容や教材、授業形態を工夫することにより、徐々に成果は見られてきているが、今後、生徒に考えさせる場面、発表する場面を多く取り入れた授業展開をさらに工夫し、単に計算力や記憶力を問うだけではない「なぜ」や「プロセス」を大切にする授業への改善を図る必要がある。
- 昨年度より「横堤中学校生徒 10 カ条」を掲げて取り組み、基本的生活習慣の改善や夢や目標を持って学習できる生徒が増加してきている。しかし、学年が下がるほど、達成状況が低く、すべての学年において、基本的生活習慣の定着や規範意識、道徳心を高められるよう取組を進める。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果において、「立ち幅跳び」「ボール投げ」が全国・大阪市平均を下回っていることから、基礎的な体力づくりとともに、個々の生徒が自分の体を効率的に動かせるよう技術指導の改善に取り組むひつようがある。また、朝食を毎日食べている生徒が、全国・大阪市平均より低く、「早寝・早起き・朝ごはん」を毎日の生活の中で意識させる必要がある。

### 中期目標

#### 【視点 学力の向上】

- ① 平成 27 年度全国学力・学習状況調査における平均正答率を、知識・活用とも全国平均より 3 ポイント向上させる。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を 75%以上にする。（カリキュラム改革関連）

#### 【視点 道徳心・社会性の向上】

- ① 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を 80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成 27 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える保護者の割合を 85%にする。（マネジメント改革関連）

#### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における全種目の平均の記録を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「運動やスポーツ、体育的行事に積極的に活動している」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える生徒の割合を 80%にする。（カリキュラム改革関連）
- ③ 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について「できた」と答える生徒の割合を、平成 27 年度全国学力・学習状況調査における全国平均を上回る。（カリキュラム改革関連）

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【視点 学力の向上】

- ① 定期テスト、実力テストにおける平均正答率3割以下の生徒を、いずれの学年も平成25年度より減少する。 (カリキュラム改革関連)
- ② 生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)

### 【視点 道徳心・社会性の向上】

- ① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)
- ② 横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成25年度の全国体力・運動能力調査において全国平均を下回った種目の平均値を平成25年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)
- ② 生徒アンケートにおける「運動やスポーツ、体育的行事に積極的に活動している」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合を75%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ③ 生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について「できた」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

## 3 本年度の自己評価結果の総括

### 【視点 学力の向上】

- ・定期テスト(5科)における平均正答率3割以下の生徒は、3年生では5教科すべてにおいて平成25年度より減少させることができた。2年生では2教科で減少させることができたが、3教科で増加する結果となった。3年生では入試を意識した主体的な学習の成果もあり、平均正答率3割以下の生徒数の減少が見られたが、2年生では学習内容が難しくなっていくこともあり、主体的な学習意欲の2極化が反映した結果となったといえる。
- ・全国学力・学習状況調査の結果において、平均正答率3割以下の生徒の割合を全国と比較すると、国語Aで1.2ポイント、国語Bで1.7ポイント、数学Aで0.9ポイント、数学Bで5.4ポイントと、全てにおいて下回った。また、平成25年度の本校の結果と比較すると、国語Bでは5.7ポイント上回ったが、国語Aで1.0ポイント、数学Aでは2.5ポイント、数学Bで23.7ポイント下回り、取組の成果がみられた。
- ・1月に実施した生徒アンケート調査における「授業がわかりやすい」という項目に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は、1年生で77.3%、2年生で73.1%、3年生で75.1%であり、全学年平均で75.3%であった。平成25年度と同じ時期の生徒アンケート調査と比較すると3年生で2.7%下回ったが、1年生で1.7%、2年生で4.6%上回り、全体では3.9%上回った。徐々に取組の成果が表れてきている。
- ・習熟度別少人数授業をはじめ、個々の生徒の課題やつまづきを把握し、学習内容や教材、授業形態を工夫してきたことや、全教員で研究授業等に取り組み、個々の教員の授業力が向上してきたことにより、徐々にその成果が表れてきている。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【視点 道徳心・社会性の向上】

- ・1月に実施した生徒アンケート調査において、「将来の夢や目標を持っていますか」という項目に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は、1年生で71.2%、2年生で78.2%、3年生で72.4%であり、全学年平均で73.6%であった。平成25年度の同じ時期の生徒アンケート調査と比較すると1年生で1.9%、3年生で4.6%減下回ったが、2年生で16.1%上回り、全体では3.1%上回った。この1年間で、将来に夢や目標を持った3年生は、10.3%上回り、2年生は5.1%上回った。
- ・1月に実施した横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケート調査において、「大きな声であいさつ、丁寧な言葉遣い」を除く9項目で「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合が80%以上になった。また、「時間を守り、遅刻をゼロにする」を除く9項目で平成25年度の結果を上回った。
- ・平成25年度より、横堤中学校の生徒であることを自覚し、規律正しく、立派に行動しえるように「横堤中学校生徒10カ条」を掲げ、生徒に基本的生活習慣の定着や規範意識を高められるよう取組を進めてきた成果が着実に結果として表れてきている。保護者アンケートにおいて、「お子様は、学校のルールや社会のマナーを守っている」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合が95.2%で、昨年度よりも2.7%上回り、「学校は、社会のルールやマナーを守る態度を育てている」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合が85.6%で、昨年度の結果よりも3.7%上回った。
- ・大学教授や企業、地域の人材を活用した出前授業や体験的な学習に重点を置いて取り組んできた。また、1年生で「職業講話」、2年生で「職場体験」、3年生で「進路講話」「高校出前授業・高校説明会」と系統的にキャリア教育に取り組んできたことが、将来に夢や目標を持つ生徒の増加、個々の生徒の基本的生活習慣の改善として成果が表れてきている。

#### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ・全国体力調査の結果において、平成25年度全国平均を下回った種目において、男子では6種目中4種目で平成25年度の記録を上回り、内3種目で全国平均を上回った。女子では、3種目中2種目で上回り1種目で全国平均を上回った。また、今年度は体力合計点において男女とも全国平均を上回った。
- ・1月に実施した生徒アンケート調査において、「運動やスポーツ、体育的行事に積極的に活動している」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒の割合は、1年生で80.3%、2年生で84.0%、3年生で76.8%であり、全学年平均で80.5%であった。また、生徒アンケートにおいて、運動会に「積極的に参加できた」と回答した生徒が94.9%と平成25年度を4.0%上回り、トップアスリートによる水泳特別授業で「楽しかった」「シンクロに興味を持った」生徒が80%を超え、ダンスのトップインストラクターによるダンス出前授業で「楽しかった」と答えた生徒が90%を超えた。
- ・1月に実施した生徒アンケート調査において、「朝食を毎日食べていますか」の項目について「できた」と答える生徒の割合は、1年生で79.1%、2年生で74.8%、3年生で69.6%であり、全学年平均で75.1%と昨年度を4.4%下回った。12月1週目を「横中朝ごはんウィーク」とし、保健委員による集会での呼びかけ・ほけんだより朝ごはん号の作成・毎日の朝ごはん調べなどを行った結果、朝食摂取率が最終日には97.7%に向上した。また、「学校は、基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合が85.9%で、昨年度の結果よりも5.5%上回った。

大阪市立横堤中学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|      |                     |                        |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した       | B：目標どおりに達成した           |
|      | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況 |
|---|------|
| <b>【視点 学力の向上】</b><br>① 定期テスト、実力テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 25 年度より減少する。<br>（カリキュラム改革関連）<br>② 生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。<br>（カリキュラム改革関連） | B    |

< 教 務 部 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   | 進捗状況 |
|--|------|
| <b>取組内容①【区分 習熟度別少人数授業の充実】</b><br>習熟度別少人数授業等の指導方法の改善を行うことで、基礎・基本的な学習内容の確実な定着を図る。<br>（カリキュラム改革関連）<br><hr/> <b>指標</b><br>・定期テスト・実力テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 25 年度より減少させる。  | B    |
| <b>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</b><br>I C T 機器の活用、学習内容を身近な問題と関連させるなど、生徒が興味関心を持つ教材を作成することにより授業内容の改善を図る。<br>（カリキュラム改革関連）<br><hr/> <b>指標</b><br>生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を 72% 以上にする。   | A    |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析  |      |
| ① 定期テスト（5 科）における平均正答率 3 割以下の生徒数は、3 年生では 5 教科のすべての教科で平成 25 年度と比べ減少させることができた（5 科平均で 3.4% の減少）。また、2 年生では 2 科で減少させることができたが（平均 4.8% の減少）、3 科で増加する結果となった（平均 5.8% の増加）。3 年生では入試を意識した主体的な学習の成果もあり 3 割以下の生徒数の減少が見られたが、2 年生では学習内容が難しくなっていることもあり、主体的な学習意欲の 2 極化が反映した結果となったといえる。<br>② 1 月に実施した生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」とする生徒の割合は、1 年生で 77.3%、2 年生で 73.1%、3 年生で 75.1% であり、全学年平均で 75.3% であった。これは平成 25 年度の同じ時期の生徒アンケート全学年平均の 71.4% を 3.9% 上回る結果となった。 |      |
| 次年度への改善点   |      |
| ・基礎学力向上の面では、1 年生から 2 年生、2 年生から 3 年生に移行する 1 学期の段階において、主体的な学習意欲を高めていく工夫をすることや補充的な学習に取り組むことで、平均正答率 3 割以下の生徒数を早い段階から減少させていくことが求められている。<br>・習熟度別少人数授業を今後も実施し、I C T 機器の活用や生徒が興味・関心を持つ授業作りを行うなど、生徒の主体的な学習意欲を引き出していく指導方法の改善を図っていく必要がある。また、「指導と評価の一体化」を踏まえた授業作りに関する校内研修を充実させていく必要がある。   |      |

< 国 語 科 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   |  | 進捗状況 |
|--|--|------|
| 取組内容①【区分 習熟度別少人数授業の充実】<br>文法や作文などの授業を習熟度別少人数授業で行い、基礎・基本の定着を図る。さらに、応用問題にも対応できるよう、きめ細かい指導の充実を図る。 (カリキュラム改革関連)  |  | A    |
| 指標<br>・定期テスト・実力テストにおける平均正答率3割以下の生徒を、いずれの学年も平成 25年度より減少させる。   |  |      |
| 取組内容②【区分 その他（国語教育の充実）】<br>授業方法の改善を行うことで、基礎・基本の定着を図る。 (カリキュラム改革関連)  |  | B    |
| 指標<br>・定期的に小テストを行い、正答率3割以下の生徒を10%以下にする。<br>・授業内での文法の復習を繰り返し行い、定期テスト・実力テストの文法分野における正答率3割以下の生徒を15%以下にする。   |  |      |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析  |  |      |
| ① 各学年ともに、ノートや授業プリント等をこまめに点検し、個に応じた学習指導を充実させた。また、漢字のワークやプリント、漢字テスト、長期休みの課題などを活用し、漢字や語句を練習させ、習得させるよう指導した。その結果、各学年ともに前年度に比べテストで30点未満の生徒の比率が減少した。全国学力・学習状況調査の結果からも、取組の成果が分かる。来年度以降も現在の取組を継続していきたい。 |  |      |
| ② 文法や古典などの分野を中心に習熟度別少人数授業を活用し、個に応じた学習指導に努めた。   |  |      |
| 次年度への改善点   |  |      |
| ・基礎基本の学習だけでなく、言語力の育成が図られるよう、言語活動の充実した授業のあり方を研究する。  |  |      |
| ・目標に準拠した評価の本格実施に向け、評価方法や手順を改善する。   |  |      |

< 社 会 科 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  |  | 進捗状況 |
|---|--|------|
| 取組内容①【区分 その他（基礎学力の定着）】<br>社会科の基本的な学習事項を定着させるために、自主学習教材を活用し、生徒の学習意欲を高める。<br>(カリキュラム改革関連)                                   |  | B    |
| 指標<br>・単元ごとに小テストや確認テストを実施し、正答率3割以下の生徒を10%以下にする。<br>・自主学習のために単元ごとの復習プリントやワークを活用する。<br>・復習プリント、ワークや繰り返しノートなどを利用し、繰り返し演習させる。 |  |      |

|   |   |
|---|---|
| <p>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</p> <p>単元ごとに評価資料の収集に努め、「目標に準拠した評価」を効果的に行える授業づくりに取り組む。（カリキュラム改革関連）</p> <p>I C T機器を活用し、社会科への興味関心を持たせる。（カリキュラム改革関連）</p>  |   |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストや確認テストだけでなく、授業プリントやワークシート、新聞等を評価資料として用い、「目標に準拠した評価」方法の定着を図ることにより、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> <li>・授業の発問を工夫し、基本語句を繰り返し提示することにより基本的な語彙を定着させ、平均正答率 3 割以下の生徒を平成 25 年度より減少させる。</li> <li>・I C T機器等で資料や地図、写真、映像を提示し、生徒に学習内容を視覚的に印象づけるように工夫することにより、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>  | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |   |
| <p>① 各学年で単元ごとの復習プリント、テスト対策プリントやワークを活用して、社会科の基本的な学習事項の定着を図った。各学年ともワークを活用して、学習内容を繰り返し演習させている。授業アンケートの結果、昨年度と比較して正答率 3 割以下の生徒は、2・3 年生ともに全体の 4 % 減少したが、正答率 3 割以下の生徒は 2 年生が全体の 20%、3 年生が 21% と 10% 以下にはできていない。1 年生は、正答率 3 割以下の生徒が 2 学期中間・期末ともに全体 15% と 10% 以下にはできていない。</p> <p>② 各学年ともに、「目標に準拠した評価」方法の定着を図るために、「社会的事象の知識・理解」の観点だけでなく、「社会的な思考・判断・表現」や「資料活用の技能」の観点の評価するための資料として、授業プリントやワークシート、テスト問題の作成を工夫して取り組んだ。また、1 年生では黒板に資料や地図を拡大して提示、ミニホワイトボードの活用、2・3 年生では I C T 機器を活用した映像資料など、生徒に学習内容を視覚的に印象づけるように工夫した。生徒アンケートにおける「社会科の授業がわかる」の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒は、1 年生は 88%、2 年生は 74%、3 年生は 86% であった。また、2・3 年生は、「授業が以前と比べて理解しやすくなった」と答えた生徒は、2 年生は 75%、3 年生は 85% であった。</p> |   |
| 次年度への改善点  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率 3 割以下の生徒は、昨年度と比較して減少したが、目標数値の 10% 以下には達していない。定期テストや小テストで点数の低い生徒や学習意欲の低い生徒に対して、小テストの再テストやテスト前の補充学習などの対策を講じる。</li> <li>・「目標に準拠した評価」方法の定着に向けて、評価資料や評価内容が適切かどうか、今年度の結果を分析し、出てきた課題を次年度に活かしていきたい。また、I C T 機器を活用した授業を定期的に行うことで、生徒の社会科に対する学習意欲を高めていく。</li> </ul>  |   |

< 数 学 科 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【区分 その他（基礎学力の定着）】</p> <p>個々の理解度に応じた学習支援を行い、基礎基本の定着を図る。</p> <p style="text-align: right;">（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元ごとの復習に、問題集や自作のプリントを用い、基礎的な内容の反復練習を行うことにより、正答率 3 割以下の生徒を 10% 以下にする。</li> <li>・ 定期テストにおける、平均正答率 30% 以下の生徒の割合を、平成 25 年度より減少させる。</li> <li>・ 家庭学習用の教材を週に 1 回以上作成することにより家庭学習の定着を図り、生徒アンケートにおける「家庭での学習が定着している」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> <li>・ 定期テスト前に放課後の学習会を複数回行う。</li> </ul> | A    |
| <p>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</p> <p>教材やテストを工夫することにより、数学への興味・関心を高める。</p> <p style="text-align: right;">（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟度別分割授業を定期的実施することで、基礎基本の定着を図ると同時に、段階に応じた発展的な内容にも取り組む。</li> <li>・ 観点別評価をふまえた定期テストや小テスト、ワークシートを作成する。</li> <li>・ 数学への興味関心を高める身近な題材を教材にする。</li> <li>・ 上記の取組により、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>   | B    |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |      |
| <p>① 定期テストにおける、正答率 3 割以下の生徒の割合が 10% を切った。また、昨年度との比較においても、今年度の正答率 30% 以下の生徒の割合は昨年度に比べて減少した。単元を振り返る自作プリントや小テストの実施により、基礎的な内容の反復練習ができた成果であると思われる。</p> <p>② 生徒アンケートにおける、「数学の学習はわかる」の項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合が 70% を超えた。昨年度と比べて、大きな変化はなかったが、高い数値を記録している。習熟度別少人数授業の展開で、個々のニーズに応じた学習支援ができているためと思われる。</p>  |      |
| 次年度への改善点  |      |
| <p>全体として、意欲的に取り組む生徒が多いが、個々の理解度に関しては大きな差があるのは確かである。教材の精選、授業内容の工夫をより進めていき、数学に興味・関心を持つ生徒を増やしていくことで、全体の底上げにつなげていく。</p>  |      |

< 理 科 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   |  | 進捗状況 |
|--|--|------|
| 取組内容①【区分 その他（学力の向上）】<br>身の回りの事象を、科学的に理解するため、基礎学力の向上を図る。<br><div>（カリキュラム改革関連）</div>   |  | B    |
| 指標<br>・定期テスト、実力テストにおける平均正答率3割以下の生徒を、いずれの学年も平成 25 年度より減少する。   |  |      |
| 取組内容②【区分 その他（学力の向上）】<br>視聴覚教材を積極的に活用する。<br><div>（カリキュラム改革関連）</div>   |  | B    |
| 指標<br>・視聴覚教材を積極的に取り入れ、よりわかりやすい授業を展開し、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。   |  |      |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析  |  |      |
| <p>【年度目標】について</p> <p>30%未満の生徒の変動は、現2年生、現3年生共にやや減少傾向にあるが、学習している領域によって難易度に違いがあるため変動も大きく、どちらともいえない状況である。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>① 増加、減少、どちらともいえない状況であった。<br/>今後に向けて、平均正答率の更なる向上をはかる必要がある。</p> <p>② 視聴覚教材を取り入れるように努力しているが、十分な活用ができていない。<br/>新理科室の器具の更なる整備をはかり、今後はより一層の活用をはかる必要がある。<br/>生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「そう思う」「どちらかといえ<br/>ばそう思う」と答える割合は、平成 25 年度の 73.2%から平成 26 年度 74.1%へと向上した。</p> |  |      |
| 次年度への改善点   |  |      |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・基本的な内容の理解をより徹底させる。</li><li>・新理科室の一層の整備が急務である。</li><li>・視聴覚教材の充実をはかる。</li></ul>  |  |      |

< 英 語 科 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【区分 その他（学力の定着）】 (カリキュラム改革関連)<br/>繰り返し練習や授業方法の改善を行うことで、基礎・基本の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標<br/>・单元ごとの単語や文法事項の小テストや繰り返し練習を行い、正答率3割以下の生徒を20%以下にする。<br/>・習熟度別少人数授業を効果的に行い、個に応じた学習支援を行い、生徒アンケートにおける「英語の授業はわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。</p> | B    |

|  |              |   |
|--|--------------|---|
| 取組内容②【区分　その他（授業内容の改善）】   | （カリキュラム改革関連） | A |
| ・C-NETやI C T機器を活用することで、英語への興味・関心を持たせる。<br>・「目標に準拠した評価」を効果的に行える授業方法の改善を図る。  |              |   |
| 指標   |              |   |
| ・C-NETを活用し、「聞く力」「話す力」の向上を図ることにより、英語能力判定テストの「リスニング」における平均正答率を平成 25 年度より向上させる。<br>・I C T機器を活用し、英語学習への興味・関心を高め、生徒アンケートで「英語は好き」「英語の授業は楽しい」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。<br>・「目標に準拠した評価」方法の定着を図ることで、英語能力判定テストの 4 分野における平均正答率を平成 25 年度より向上させる。  |              |   |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析  |              |   |
| ①・2学期の定期テストにおける文法事項の理解において、正答率3割以下の生徒を3年生では19%、2年生では11%と目標の20%以下を下回ることができたが1年生では28%と目標を上回る結果となった。<br>・習熟度別少人数授業を実施後の生徒アンケートでは「授業が分かりやすい」とする生徒数が1年で80.2%、2年で82.6%、3年で80.0%であり全学年平均で80.9%になった。これは平成25年度の73%を7.9%上回る結果となり習熟度別少人数授業等の成果があらわれたといえる。   |              |   |
| ②・C-NETを計画的に活用した授業を行い、1・2年生では会話表現力の育成、3年生では自己表現力の育成を目指した取り組みを実践した。そうした取り組みの成果もあり3年生の英語能力判定テストの「リスニング」の平均正答率を平成25年度より6.5%向上させることができた。<br>・I C T機器の活用面では3年生ではデジタル教科書を、1年生ではパワーポイントで作成した教材を効果的に活用し生徒の興味・関心を高める授業改善を図った。さらに、3年生ではskypeを活用した国際交流を通して「英語を使ったコミュニケーション力」を高める実践を行った。そうした結果、生徒アンケートで「英語は好き」「英語の授業は楽しい」と答える生徒の割合は1年生で59.9%、2年70.0%、3年生で77.0%となり全体平均で69.0%となり平成25年度の全体平均の67.7%より1.3%向上させることができた。<br>・「目標に準拠した評価」方法の定着を図ることで、3年生の英語能力判定テストの平均正答率を4分野全てで向上させ、平成25年度より全体平均で4.8%上回った。 |              |   |
| 次年度への改善点   |              |   |
| ・今後、1・2年生の「チャレンジテスト」や全学年の「能力判定テスト」を意識し、語彙、文法、読解、リスニング力の4分野で目標を決め、バランス良い力の向上を計画的に行っていく。<br>・I C T機器を積極的に活用し、生徒に主体的な学習意欲を持たせるような授業作りを行っていく必要がある。そのためにも相互に授業研究を行い、授業力のアップを図っていく。<br>・目標準拠の評価」に関する共通理解を図り、「指導と評価の一体化」を図った実践を行う。  |              |   |

< 音 楽 科 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【区分 その他（基礎学力の定着）】</p> <p>プリントや、授業内容を工夫することにより、わかりやすい授業づくりに努める。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントなどを使用して学習内容の要点を明確にし、復習を促す。</li> <li>・観点別評価を行うための教材を開発し、それに応じたプリントを作成する。</li> <li>・音楽知識と実技を関連付け、実技を行う中で効果的に解説を加える。</li> <li>・上記の取組により、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul> | B    |
| <p>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</p> <p>教材を工夫することにより、音楽への興味関心を高める。(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年 2 回以上研修等に参加し、生徒が興味・関心を持ちやすい教材を開発する。</li> <li>・授業の導入部では教材の提示方法を工夫する。</li> <li>・教材ごとに目標を明確にし、生徒が学習内容を正しく把握できるようにする。</li> <li>・上記の取組により、生徒アンケートにおける「音楽の授業に興味や関心や意欲を持つようになった」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>                                | B    |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |      |
| <p>① 合唱コンクールなど、実技を伴う活動の中で、プリントなどを使って実技と音楽知識の関連付けを行った。その際に使用するプリントには、観点別評価を行うための項目を入れて、評価につながるようにした。</p> <p>② 生徒の日常生活に沿った音楽や、実技を導入に使用することで、生徒がその教材に興味を持ちやすくなった。</p> <p>以上のことにより学校アンケートでは平成 25 年度に比べて、「授業が分かりやすい・どちらかといえば分かりやすい」「音楽の授業に興味や関心や意欲を持つようになった」と回答した生徒の割合が増加した。</p>   |      |
| 次年度への改善点  |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、観点別評価を行うための教材や、ワークシートを開発している。しかし、学校アンケートの「適切な評価」の項目について、音楽科は平成 26 年度の学校平均値よりやや低い数値となっている。評価を点数化しにくい教科であるからこそ、保護者・生徒が納得できる評価規準を定める。</li> <li>・今年度に行った評価を元に、各教材について評価規準を明文化しておき、次年度には評価がスムーズに行えるようにする。</li> </ul>  |      |

< 美術科 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【区分 その他（基礎学力の定着）】</p> <p>自主学習や振り返り学習ができるようなプリントを活用し、基礎学力の定着を図る。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下描きや授業のまとめを理解できるようなプリントを活用する。</li> <li>・授業の中で振り返りや学習確認をしながら繰り返し学習できる工夫をする。</li> <li>・上記の取組により、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>  | B    |
| <p>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</p> <p>発問や板書、視覚的な資料を工夫して、興味関心を持たせる。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書資料や写真など、視覚的に印象付けるように工夫する。</li> <li>・創作活動の注意点やポイントを理解させるプリントを作成する。</li> <li>・授業ごとの点検票を作成し、各自で自己評価・まとめをさせる。</li> <li>・上記の取組により、生徒アンケートにおける「美術の授業に興味や関心や意欲を持つようになった」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>                                       | B    |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析  |      |
| <p>① 授業を進めるために必要な下描きは、参考資料が必要なため事前に授業で知らせて準備させている。忘れた生徒に対しては、学校にある資料集などで題材をまとめ上げ、作品制作に努めた。</p> <p>生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させることができなかった。</p> <p>② 生徒は、授業前後に点検票の記入の際に授業予告と振り返りができる記入欄に書いて、その時間の達成状況を確認できるようにした。学年によりバラつきはあるが、授業の課題が把握できるようになってきたので今後も続けていきたい。</p> <p>生徒アンケートにおける「美術の授業に興味や関心や意欲を持つようになった」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させることができた。</p> |      |
| 次年度への改善点   |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、各学年の生徒の様子に応じた学習内容を探っていくと共に改善を図り、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を向上させる。</li> <li>・基礎学習や振り返り学習ができるように下描きを持ち帰り、家庭で取材をさせたりすることで授業内容を充実しつつ目的を持った学習にしていく。</li> </ul>  |      |

< 保健体育科 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  |  | 進捗状況 |
|---|--|------|
| 取組内容①【区分 その他（基礎知識の定着）】<br>単元ごとに小テストを実施し生徒の理解状況を把握するとともに、到達度の低い項目については、繰り返し取り組むことにより、基礎的知識の習得を図る。<br><div>(カリキュラム改革関連)</div>   |  | B    |
| 指標<br>・定期テストにおける平均正答率3割以下の生徒を、いずれの学年も平成25年度より減少させる。   |  |      |
| 取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】<br>副教材やワークシート、視覚教材を積極的に利用して、よりわかりやすい授業を展開する。<br><div>(カリキュラム改革関連)</div>  |  | A    |
| 指標<br>・生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。  |  |      |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |  |      |
| <p>① 平成25年度の定期テスト平均正答率3割以下の生徒は、2年生12.0%、3年生11.2%だった。今年度においては、小テストを定期的実施し基礎知識の定着を図った結果、3年生は8.0%と昨年度より3.2%減とすることができた。だが、2年生は18.3%と昨年度より6.3%増になった。</p> <p>② 平成25年度におこなった生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合が82.9%から、今年度（3学期実施分）は84.5%と、1.6%向上した。今年度、授業時に教科書と体育ファイルを携帯させることを徹底させ、常に動きのイメージやルールの確認をできる環境を整えた。言葉の説明だけでなく、視覚教材を用いたことで生徒たちの興味や関心を引き出したと思われる。</p> |  |      |
| 次年度への改善点  |  |      |
| <p>・小テストの実施により基礎知識の定着がみられなかった生徒は、普段の授業においても学習意欲が低い傾向がある。来年度も引き続き小テストをおこない、それに加えて生徒の関心を高めるような授業展開を工夫していく。</p> <p>・視覚教材を利用して授業展開をさらに工夫し、授業のなかで教師が伝達した内容が生徒に正しく理解できているかどうかの確認方法を検討していく。</p>  |  |      |

< 技術家庭科 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   |  | 進捗状況 |
|--|--|------|
| 取組内容①【区分 その他（基礎学力の向上）】<br>プリント学習により基礎知識の習得を図る。 (カリキュラム改革関連)  |  | B    |
| 指標<br>・プリント作成において、いずれの学年もC評価の割合を平成 25 年度より減少させる。<br>・定期テストの基礎問題において、いずれの学年も平均正答率を平成 25 年度より上げる。                              |  |      |
| 取組内容②【区分 その他（技術の向上）】<br>実習により基礎技術の定着を図る。 (カリキュラム改革関連)  |  | A    |
| 指標<br>・作品制作において、未完成の割合を平成 25 年度より減少させる。<br>・作品制作において、いずれの学年もC評価の割合を平成 25 年度より減少させる。  |  |      |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析  |  |      |
| ① プリントなどの提出物について、作成の仕方などの細やかな指導を心掛け、C評価が減少した。基礎知識の重要項目については復習確認をしながら取り組むことにより、基礎・基本的事項の定着に努めている。定期テストの平均正答率は、平成 25 年度より上回った。 |  |      |
| ② 実習における作品制作については、各学年ともにほとんどの生徒が完成させることができた。パソコンや電子黒板を用いた授業や、わかりやすい制作説明を実施し、完成度の高い作品ができるような指導が行えた。                           |  |      |
| 次年度への改善点   |  |      |
| ・ 基礎・基本的事項の定着を図るために、今後も授業の取り組みを工夫していく。<br>・ 作品制作における技術の向上を図るために、より完成度の高い作品ができるような指導を継続していく。                                  |  |      |

大阪市立横堤中学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|      |                     |                        |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した       | B：目標どおりに達成した           |
|      | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標   | 達成状況 |
|--|------|
| <b>【視点 道徳心・社会性の向上】</b><br>① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。<br>（カリキュラム改革関連）<br>② 横堤中学校生徒 10 カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。<br>（カリキュラム改革関連） | B    |

< 人権・特別支援教育委員会 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <b>取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】</b><br>道徳心社会性の向上を図り、系統的な道徳の授業に取り組む。<br>（カリキュラム改革関連）   | B    |
| <b>指標</b><br>・横堤中学校生徒 10 カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。<br>・道徳の取組などをまとめた通信を発行する。   |      |
| <b>取組内容②【区分 道徳教育の推進】</b><br>豊かな体験活動の推進により、生徒一人ひとりの感性や情操を育む。<br>（カリキュラム改革関連）（マネジメント改革関連）   | B    |
| <b>指標</b><br>・プロの芸術家やトップアスリート、企業、大学や地域・関係諸機関と連携した出前授業や講演会等の体験活動を実施することにより、生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。 |      |
| <b>取組内容③【区分 特別支援教育の充実】</b><br>集団生活をする中で個々に合った能力を伸ばし、社会性や自立心を高める。<br>（カリキュラム改革関連）  | B    |
| <b>指標</b><br>・学校・学年行事を活用し、他の生徒との交流の機会を多く持つ。<br>・特別支援学級で社会性を身につけるための自立訓練に取り組む。<br>・全教職員による特別支援学級の生徒の理解を図るための校内研修を実施する。                                       |      |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |
|---|
| <p>① 全校において、親子人権学習会・芸術鑑賞・茨田高校と連携して行ったピアメディエーションの学習などを行い、各学年では課題に応じた道徳的な学習の取り組みをした。その結果、横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒は平均87%で、目標を上回っている。</p> <p>道徳的な取組のまとめを、横中だよりや学年通信に掲載して共通理解を図った。</p> <p>② 芸術鑑賞や、水泳・ダンスのトップアスリート、大学教授、企業などと連携した出前授業や講演会等の体験活動を多く実施した。その結果、生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「あてはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は、全校で平成25年度より約3%増加した。また、学年ごとの比較においては、2年は約5%、3年は約10%それぞれ増加した。</p> <p>③ 学校行事では運動会や合唱コンクール、特別支援教育活動では、合同運動会や職業訓練、ふれあいステイを通じて、挨拶やマナーなど社会性を身につけることができた。</p> |
| 次年度への改善点  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケートを項目別に分析すると、「6、大きな声であいさつ、丁寧な言葉遣い」の項目のみ80%を下回っている。6の項目について生徒の意識を高めるような、取り組みをしていく。</li> <li>道徳の教科化に向けて、各学年の道徳の授業の充実を図っていく。</li> <li>特別支援教育活動の合同運動会や職業体験、ふれあいステイでは他校の生徒とのコミュニケーションが少なかったため、関わる機会を多く設け、コミュニケーション能力の向上を促す。</li> </ul>   |

<生活指導部>

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【区分 道徳教育の推進】</p> <p>横堤中学校生徒10カ条を基に、基本的生活習慣と道徳心の育成に取り組む。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学期ごとに学校生活を振り返らせ、それぞれの項目について「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。</p>  | A    |
| <p>取組内容②【区分 道徳教育の推進】</p> <p>時間を守り、余裕をもって行動する意識を高める。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・登校時に予鈴遅刻チェックを行い、前年度より予鈴遅刻者数を減らす。</p> <p>・チャイム着席を徹底し、学期に1回強化週間を行う。</p> <p>・横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケートにおける「時間を守り、遅刻をゼロにする」の項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を80%以上にする。</p> |      |

|   |   |
|---|---|
| <p>取組内容③【区分 道徳教育の推進】</p> <p>「あいさつ」が習慣付くよう指導する。 (カリキュラム改革関連)</p>   |   |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケートにおける「大きな声であいさつ、丁寧な言葉遣い」の項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。</li> </ul>   | A |
| <p>取組内容④【区分 問題行動への対応】</p> <p>教職員間の共通理解を図り、チーム指導を推進する。 (カリキュラム改革関連)</p>  |   |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の情報交換を密に行い、生活指導部へ情報の集約を行う。</li> <li>・生徒の実態把握、問題行動への対策・予防策の共通理解を図るため、学年・校務分掌を超えた「生活指導ミーティング」を各学期に3回実施する。</li> </ul>  | A |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>  |   |
| <p>① 1月に実施した横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケート調査において、「時間を守り、遅刻をゼロにする」を除く9項目で平成25年度の結果を上回った。集会の場などを使用し、たくさんの先生方から講話をしていただき、いろいろな視点から10カ条の推進を行った成果の表れである。</p> <p>② 1月に実施した横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケート調査において、「時間を守り、遅刻をゼロにする」の項目で「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合が、1年生で87.2%、2年生で77.3%、3年生で91.1%であり、全学年平均で85.3%であった。</p> <p>③ 1月に実施した横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケート調査において、「大きな声であいさつ、丁寧な言葉遣い」の項目で「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合が、1年生で75.6%、2年生で72.3%、3年生で78.1%であり、全学年平均で75.5%と昨年度を0.9%上回った。</p> <p>④ 教師間の情報交換を密に行い、迅速な対応を行うことができた。</p> |   |
| <p>次年度への改善点</p>   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻の生徒数は減少してはいるが、常態化している生徒も見受けられるので家庭との連携をとりながら指導をすすめていく。</li> <li>・チャイム着席強化月間を行うことができなかったため次年度では行いたい。</li> <li>・一部まだ問題行動を繰り返す生徒がいるため、関係諸機関、保護者、教職員、地域が連携できるような体制をさらに考える。</li> </ul>   |   |

< 進路指導委員会 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【区分 キャリア教育の推進】</p> <p>職場体験学習に取り組み、学校から社会への移行のために必要な基礎的資質や能力をはぐくむ。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>  | B    |
| <p>取組内容②【区分 進路指導】</p> <p>将来の夢や目標に基づいて、自分の進路について考えさせるとともに、「進路だより」を通して進路にかかわる情報を生徒・保護者に積極的に発信する。<br/>(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおける「学校は、将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える保護者の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>   | B    |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |      |
| <p>① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は、1 年生では、平成 25 年度に 1.9% 届かなかったが、2 年生では、平成 25 年度は 73.1% だったものが、平成 26 年度は 78.2% に向上した。また 3 年生では、1 学期 68%、2 学期 74%、3 学期 72% と 2 年生時の 62% と比較して高い値を示しているが、目標の 75% には達していない。</p> <p>② 保護者アンケートにおける「学校は、将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている」の項目については、1 年生では、平成 26 年度は 70.6% となっており、2 年生では、平成 25 年度は 76.2% だったものが、平成 26 年度は 81.2% に向上した。3 年生では、平成 25 年度は 63.0% だったものが、平成 26 年度は 74.7% と向上している。</p> <p>2 年生の取り組みとして、外部より講師を招き事前指導を行い実施した職場体験や、将来を考えさせる生徒向け進路説明会を実施したことも、アンケート結果で数値が向上した要因ではないかと思われる。また、3 年生では出前授業や高校説明会、進路講話を実施し将来の夢や目標について考えさせており、進路指導では、「進路便り」や年 2 回の保護者向け進路説明会を通じ、進路決定に向け教員、生徒、保護者と共に取り組んでいる。</p> |      |
| 次年度への改善点  |      |
| <p>3 年生は、次年度の公立の入試制度が大幅に変更となるので、早い時期に将来の夢や目標を考えさせると共に進路決定ができるように指導していく必要がある。</p> <p>また、次年度も外部講師を招いての講話や出前授業を行い、より将来の夢や目標を持てるようにも取り組みを行っていく。</p>   |      |

大阪市立横堤中学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|      |                     |                        |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した       | B：目標どおりに達成した           |
|      | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況 |
|---|------|
| <b>【視点 健康・体力の保持増進】</b><br>① 平成 25 年度の全国体力・運動能力調査において全国平均を下回った種目の平均値を平成 25 年度より向上させる。<br>(カリキュラム改革関連)<br>② 生徒アンケートにおける「運動やスポーツ、体育的行事に積極的に活動している」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合を 75%以上にする。<br>(カリキュラム改革関連)<br>③ 生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について「できた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。<br>(カリキュラム改革関連) | B    |

< 保健体育科 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| 取組内容①【区分 その他（基礎体力の向上）】<br>補強運動を固定化せず、「瞬発力」や「巧緻性」を養うようなトレーニングを工夫する。<br>(カリキュラム改革関連)<br>各学期に「ハンドボール投げ」「立ち幅跳び」の測定を実施し、前回の記録と比較することで生徒の体力の向上を図る。<br>(カリキュラム改革関連)  | B    |
| 指標<br>・平成 25 年度の全国体力・運動能力調査において全国平均を下回った種目の平均値を平成 25 年度より向上させる。   |      |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |      |
| ① 平成 25 年度の全国体力・運動能力調査において全国平均を下回った種目において、昨年度の本校の記録は「立ち幅とび」が男子 182.19 c m、女子 161.56 c m、「ハンドボール投げ」が男子 20.26 c m、女子 12.48 c mであった。今年度は基礎体力の向上を図り取り組んだ結果、「立ち幅とび」については、男子 188.41 c m、女子 164.41 c mと、男女ともに昨年度の平均より向上させることができた。しかし、「ハンドボール投げ」については、男子 20.25 c m、女子 12.17 c mと男女ともに昨年度の平均を向上させることができなかった。 |      |
| 次年度への改善点  |      |
| ・補強運動の中に様々な体力を養うトレーニングを入れていきかけたが、固定化した補強運動をこなせるようになるまでに時間がかかり、十分な時間の確保ができなかった。来年度は「体づくり運動」の単元の授業を積極的におこない、巧緻性や瞬発力を養うトレーニングを取り入れていく。   |      |

< 体育行事委員会 >

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  |  | 進捗状況 |
|---|--|------|
| 取組内容①【区分 体育的活動の充実】<br>生徒主体の運動会や各種スポーツ大会を実施し、体育的行事の活性化を図る。<br>(カリキュラム改革関連)   |  | A    |
| 指標<br>・運動会等の振り返りアンケートにおいて、「積極的に参加できた」「楽しかった」などの項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える生徒の割合を80%以上にする。  |  |      |
| 取組内容②【区分 体力向上の支援】<br>トップアスリートや専門的な技術指導者、大学教授による実技講習会を実施し、子どもの運動に対する関心・意欲を高めることにより、体力の向上を図る。<br>(カリキュラム改革関連)   |  | A    |
| 指標<br>・講習会の振り返りアンケートにおいて、「楽しかった」「興味がわいた」などと答える生徒の割合を80%以上にする。   |  |      |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |  |      |
| ① 運動会終えて、「積極的に参加できた」と答える生徒が94.9%、「楽しかった」と答える生徒が90%いた。   |  |      |
| ② 水泳のシンクロナイズドスイミング体験を終えて、「楽しかった」「シンクロに興味を持った」生徒が80%以上いた。<br>ダンスの出前授業を終えて、「楽しかった」と答える生徒が90%以上、「興味を持った」と答える生徒が78%いた。<br>ダンスの授業を終えて、ダンスを始めたい生徒や再び始める生徒も多数おり、将来の夢や希望を持てるきっかけとなった。 |  |      |
| 次年度への改善点  |  |      |
| ・体育的行事の拡充を図り、活性化に向けた取り組みを工夫する。<br>・ダンスの出前授業を受けて、今年度学習したことを生かした授業展開が行えるよう、授業力を高めていく。   |  |      |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】</p> <p>早寝・早起き・朝ごはんを軸に、規則正しい生活習慣を確立させる。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「早寝・早起き・朝ごはん」を生活の中で意識できるよう、「ほけんだより」や「食育通信」を毎月発行する。</li> <li>・学期ごとの学校生活振り返りアンケートにおいて、生活習慣にかかわる3項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。</li> </ul>  | B    |
| <p>取組内容②【区分 食育】</p> <p>朝ごはんを食べることの重要性を生徒に啓発し、朝ごはんを食べようとする意識を身につけさせる。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員会で朝ごはんについて啓発する活動に取り組む。</li> <li>・生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について「できた」と答える生徒の割合を80%以上にする。</li> </ul>  | B    |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |      |
| <p>① ほけんだより・食育通信については毎月発行し、規則正しい生活についてや朝食をとることの大切さ、バランスの良い食生活について啓発を行うことができた。</p> <p>今年度の学校生活振り返りアンケートを平成25年度のものと比較すると、就寝・起床時刻については決まった時間に生活することができている生徒の割合が3～4%増えていた。しかし、朝食を毎日食べている生徒については昨年度から1%の減少がみられた。</p> <p>② 12月1日から5日までを「横中朝ごはんウィーク」とし、保健委員による集会での呼びかけ・ほけんだより朝ごはん号の作成・毎日の朝ごはん調べなどを行った。期間中に行った朝ごはん調べの結果、期間初日は全体で90.8%だった朝食摂取率が最終日には97.7%に向上し、朝ごはんウィークの取り組みが毎日の朝食摂取に対する意識づけになったとみられる。</p> <p>3学期の学校生活振り返りアンケートの結果、「朝食を毎日食べていますか」の項目について「できた」と答える生徒の割合は79.5%であり、「どちらかといえばできた」と答えた生徒と合わせると90.3%となった。</p> |      |
| 次年度への改善点  |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「横中朝ごはんウィーク」期間は朝食を食べていたが、日常的に朝食を摂取することができていない生徒に対する働きかけが必要である。今年度行った取り組みを、内容を改善・発展させながら次年度も継続的に行うことにより、毎日朝食を食べる習慣の定着を促していく。</li> <li>・生徒保健委員を中心とした規則正しい生活についての取り組みをより効果的なものへと発展させていく。</li> </ul>  |      |

大阪市立横堤中学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|      |                     |                        |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した       | B：目標どおりに達成した           |
|      | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

< 1 年 >

| 年度目標   | 達成状況 |
|--|------|
| <b>【視点 道徳心・社会性の向上】</b><br>① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。<br>（カリキュラム改革関連）<br>② 横堤中学校生徒 10 カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。<br>（カリキュラム改革関連） | B    |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| 取組内容①【区分 特別活動】<br>仲間を知り、大切にするための学級・班活動を推進する。（カリキュラム改革関連）<br>指標<br>・全ての学級で班活動に取り組む。（清掃活動・学校給食の円滑な実施。）<br>・生徒アンケートで、「仲間と気持ちよく生活できている」の項目において、「できている」「どちらかといえばできている」と回答する生徒の割合を 70%以上にする。  | A    |
| 取組内容②【区分 その他（基本的生活習慣の育成）】<br>横堤中学校 10 条を意識できるように指導し、時間やきまりを守らせる指導を根気よく続ける。（カリキュラム改革関連）<br>指標<br>・生徒アンケートで、「きまりを守っている」の項目に対する回答において、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合を 8 割以上にする。<br>・朝の遅刻を通年で 1 パーセント以下にする。   | A    |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |      |
| ① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は、平成 25 年度に 1.9%届かなかった。生徒 10 カ条アンケートの「大きな声であいさつ、丁寧な言葉遣い」の項目のみ 76%で、80%の目標を超えられなかった。しかしながら、ほかの目標は大きく上回っていることから、目標をほぼ達成したと考える。生徒振り返りアンケートで、「仲間と気持ちよく生活できている」「きまりを守っている」の項目で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は、それぞれ、92%、93%と、それぞれの目標を達成した。学校給食・清掃活動については、当初戸惑いが見られたが、現在は順調にできている。それでも始める時間が遅く、終了時間も遅い。<br>② 遅刻総数では、丁度 1%であるが、通院、不登校生徒の遅刻登校を除けば 1%を切り、目標を達成している。 |      |

| 次年度への改善点  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>給食・清掃活動は、早く取り掛かるよう「声掛け」を各教師がさらに増やす。<br/>生徒10カ条アンケートで達成できなかった項目「大きな声であいさつ、丁寧な言葉遣い」を向上できるよう指導を継続し、その向上を図る。給食・清掃については、作業を始めるよう早めに声掛けをする。</li> <li>大幅遅刻する生徒・保護者への対応や指導を継続しながらその改善を図る。</li> </ul> |

< 2 年 >

| 年度目標  | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【視点 道徳心・社会性の向上】</p> <p>① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <p>② 横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を80%以上にする。<br/>(カリキュラム改革関連)。</p> | B    |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【区分 キャリア教育の推進】</p> <p>職場体験学習に取り組み、学校から社会への移行のために必要な基礎的資質や能力をはぐくむ。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <p>・生徒アンケートの「将来の夢や目標を持っている」の項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を、平成25年度より向上させる。</p>  | B    |
| <p>取組内容②【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】</p> <p>学校から積極的に情報を発信するとともに、生徒の良さや課題を伝え、共通理解を図る。<br/>(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)</p> <p>指標</p> <p>・学年通信を月1回発行する。</p> <p>・保護者アンケートの「教育活動の様子を学校だよりやホームページ等で積極的に発信している。」の項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える保護者の割合を、平成25年度より向上させる。</p> | A    |
| <p>取組内容③【区分 いじめへの対応】</p> <p>違いを認め合い、思いやりを持って協力し合う、いじめを許さない集団づくりを行う。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <p>・学年全体で班活動に取り組み、生徒アンケートの「仲間とともに喜び感動し、共感できる」「いじめを許さない」の項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を、平成25年度より向上させる。</p>                                      | B    |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析  |  |
|--|--|
| <p>① 9月～11月に職場体験学習を実施し、職場での実習に向けた事前学習やあいさつ状の作成、事後のまとめ学習などを行った。また、12月にはチャレンジテストや今後の入試制度の改変点を学年全体に説明したり、卒業後の進路について考える機会を多く作った。その結果、生徒アンケートの「将来の夢や希望を持っている」の項目において、平成25年度は73.1%だったものが、平成26年度は78.2%に向上した。</p> <p>② 毎月発行の学年通信や学級通信を通して情報発信を行うとともに、生徒の意見や様子を伝えることができた。その結果、保護者アンケートの「教育活動の様子を学校だよりやホームページ等で積極的に発信している」の項目では、平成25年度が86.7%だったものが平成26年度は93.0%に向上した。</p> <p>③ 様々な学習場面において班活動を推進し、集団での意識を醸成した。生徒アンケートの「仲間とともに喜び感動し、共感できる」の項目は平成25年度が84.0%だったものが88.3%、「いじめを許さない」の項目は平成25年度が76.8%だったものが平成26年度は89.1%に向上した。</p> |  |
| 次年度への改善点   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの数値は向上したものの、学年と学校全体と比較するとその結果が低いものもある。そういった点を意識し、継続して指導にあたっていく。</li> </ul>   |  |

### < 3 年 >

| 年度目標   | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【視点 道徳心・社会性の向上】</p> <p>① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> | B    |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【区分 進路指導】</p> <p>進路についての取組等の学習を通じて、将来の夢や目標について考えさせる。<br/>(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合を75%以上にする。</li> </ul> | B    |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析  |      |
| <p>① 1年間を通じて、進路説明会、出前授業、高校説明会、進路講話、出願や入試の事前指導等を実施し、進路決定を具体化する中で、将来の夢や目標について考えさせている。生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒の割合は、1学期68%、2学期74%、3学期72%と2年生時の62%と比較して高い値を示しているが、目標の75%には達していない。</p>          |      |
| 次年度への改善点   |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>進路選択の時期に向けて、将来の夢や目標をもとに進路決定ができるように指導していく。</li> </ul>  |      |